

日立評論發刊に就いて所感

馬場 彙 夫

製作所が業を創めてから速くも拾年近くに成つた。其間随分こ紆餘曲折が有つたけれども、兎も角役員數人及び數拾の職工で有つたものが數拾人で數百の職工を見る様になり、近來は亦頓に急進的で數百の俊才が數千の職人と共に毎日一つの屋根の下に相見ゆるに至つた。勿論遠からず數千の篤學家が一團に成るものと思ふし左様なくてはならない筈で有る。昔毛利元就で有つたか其小兒を戒むるに弓の矢を以てし一本一本だこ容易に手折れるが是れを壹束にするこそんなに折れ易くはない、汝小供等も必ず心を合はして漫りに墻に闘いではいけないこか曰ふたこ聞く。此事古嗅い話で有るけれども吾々の場合にも正にフィットするこ思ふ即ち一家に限ぎらず一團體進んでは一國家も其強弱は能く壹束になつて居るか、なつて居らないかに依るこ思はれる。吾々も亦能く壹束になつて團結をして益々強固ならしめ度い。本日立評論は各壹本立ちなる意見を壹束にするの用に供したいものこ思はれる、殊に秀英の人千百を以て數ふる状態だから此れが夫々壹本立ちで有るか能く壹束になつて居るかは社内は無論の事實に國家の盛衰にも影響する。獨米等の状態を見るこ甚だ能く統一せられて居るらしい。製作家こ需要家こ貫徹せる意見の統一が有る事及び製作家等自身の内輪に於ても決して區々別々の意見を有するものではないらしい。余輩の廣くもない範圍の智識が度々甲論乙駁の記事を見る事が有る獨人の論説は殊に徹底的で有る様に思はれる。本誌は以て多くの氣鋭人士の説をフォージし亦レフインするに足らしめたい。つまり米國電氣工師會誌及びGE評論を併したるが如き形に進み斯くして社内の啓發及び國內のリーダーに成つて欲い。新特許を紹介する事、新發見の研究事項を發表する事、「カスタマー」の意見の貫徹を計る事、其他多くの人知つて欲い所信を發表する事、誤説を駁する事等は誌上を以てするを便こするかこ思ふ。蓋し進歩改善は斯くの如くして得られるだらう各員奮勵一番努力して此の希望を水泡こならざらしめよ。